

地図の索引

長野県池田町立会染小学校 矢口高士

1. はじめに

4年生から地図帳を使い始めるが、その時期の意味を考えてみた。4年生では国語において「漢字辞典（書）」の引き方を学習する。また、算数において、折れ線グラフを学習する。この両者は地図帳の学習には不可欠な要素であった。「索引」によって自分のめざすものを探す。「座標」という概念がグラフにはある。だったら地図帳の索引はしめたもの。だから、地図帳の索引を使つての地図学習はあえて前述の両者の学習を待ってすることにした。それまでは、私の方からページを指定して地名を探させていた。

2. 「謎の暗号を解読せよ」

子どもたちは、以前から地図帳の巻末に地名が載っているページのあることには気がついてた。しかし、子どもたちにとっては、地名の横の記号は「謎の記号」なのである。

地図帳を使って「福岡市」を探させていたときである。探した地名に黄色い付箋を貼らせたが、「福岡市」ではなく「福岡県」の赤い文字に付箋を貼っている。確かにめだつのは県名の方である。

さあ、索引の学習時期が到来したかなと思い、ちょうど、私が出張予定している「つくば市」を材料にした。

教師：暗号か。それじゃ、この暗号をみんなで解読しよう。班ごとになって。この暗号が解読できたら、そうっと先生に教えにきてください。

こうやって子どもたちは4名の班に分かれ、バズセッションがはじまる。早い班で5分もしないうちに私のところへやってくる。おおかた正解に近いのだが、完全な正解ではないのだ。つくば市は「34オ5」である。確かにp.34を開き、つくば市に付箋が貼ってある。そこで、調べた方法を聞き取っていくと、ある事実につづかった。複数の班が陥った落とし穴なのである。

子どもたちは、左記のように「オ」の記号はみつけられた。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1					
2					
3					
4					
5					●

「5」の記号もみつけた。しかし、控えめにひいてある水色の細い線を見つけれないているのだ。記号同士が描いてある所から指を2本もって行きぶつかった所であると私に説明する。座標の四角形が見えないのである。

私は、惜しいことを言い添えながらも、冷徹に正解ではないと突っぱねる。子どもたちは意地でも正解に向け突き進む。20分後第一正解者が出てくる。謎を解き明かした班が全体に説明する栄誉をもらう。気にはなっていたが何の線なのかを知らないでいた子どもが多かった。後は地名さがしがどんどんはじまった。

3 おわりに

子どもたちの好奇心は、教師の直接的な指導を必要とせず、課題を自分たちで解決する原動力になる。特に、遊びの感覚が内在すれば私は黙っていても課題解決に向かっていくだろう。地図帳という情報量の多い書物の場合、地図記号と索引は便利ではあるが、理解できない者にはやっかいになる。社会科は興味と関心をもつことが原動力になる。ならば、子どもたちに「謎」を残せば、きっと前向きな学習がはじまるだろう。

教師：地図帳の34ページを開いてくれるかな。

児童A：ここにたくさんの地名が載っているんだよ。

児童B：ほくも知ってる、でもね、その地名の後に、変なのがあるんだよ。

児童C：そうだよ、カタカナの『オ』とか、数字の『5』とか書いてあるんだ。

教師：その記号って何だろう？

児童C：なんか、暗号みたいでわかんない。